

# 介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

## 1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 揺籃会
事業所名	特別養護老人ホームゆうあいの郷
事業所の所在地	〒061-0600 権戸郡浦臼町字キナウスナイ 188 番地 70
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	017100096

## 2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
1 回目（ク）介護従事者ができる薬剤管理
2 回目（イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア
3 回目（カ）介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア
4 回目（イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア
5 回目（イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア
6 回目（ウ）認知症の理解
7 回目（カ）介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア
8 回目 口腔ケアについて
開催日時
1 回目 令和 5 年 8 月 10 日（水） 13：00～15：00
2 回目 令和 5 年 9 月 4 日（月） 13：15～15：15
3 回目 令和 5 年 9 月 25 日（月） 13：00～15：00
4 回目 令和 5 年 10 月 2 日（月） 13：00～15：00
5 回目 令和 5 年 10 月 23 日（月） 13：00～15：00
6 回目 令和 5 年 11 月 9 日（木） 13：00～15：00
7 回目 令和 5 年 11 月 20 日（月） 13：00～15：00
8 回目 令和 6 年 1 月 29 日（月） 13：00～15：00
開催場所
特別養護老人ホームゆうあいの郷 ホール
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
1 回目（介護従事者ができる薬剤管理） 12 名
特別養護老人ホームゆうあいの郷 看護職員 2 名
生活相談員 1 名
介護職員 3 名
統括責任者 1 名
栄養士 1 名
地域密着型特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 4 名

2回目（高齢者の運動機能の向上のためのケア） 6名

特別養護老人ホームゆうあいの郷 看護職員 1名

介護職員 5名

3回目（介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア） 14名

特別養護老人ホームゆうあいの郷 看護職員 2名

介護職員 3名

調理員 3名

うらうすデイサービスセンター 相談員 1名

地域密着型特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 3名

月形愛光園 介護職員 2名

4回目（高齢者の運動機能の向上のためのケア） 9名

特別養護老人ホームゆうあいの郷 看護職員 2名

地域密着型特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 4名

グループホームゆうあいの郷 介護職員 3名

5回目（高齢者の運動機能の向上のためのケア） 10名

特別養護老人ホームゆうあいの郷 統括責任者 1名

生活相談員 1名

介護職員 4名

地域密着型特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 2名

グループホームゆうあいの郷 介護職員 1名

月形愛光園 介護職員 1名

6回目（認知症の理解） 9名

特別養護老人ホームゆうあいの郷 統括責任者 1名

生活相談員 1名

看護職員 2名

介護職員 3名

地域密着型特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 1名

グループホームゆうあいの郷 介護職員 1名

7回目（介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア） 9名

特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 2名

調理員 3名

栄養士 1名

地域密着型特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 2名

グループホームゆうあいの郷 介護職員 1名

8回目（口腔ケア） 12名

特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 5名

看護職員 2名

地域密着型特別養護老人ホームゆうあいの郷 介護職員 5名

#### 研修内容

##### 【1回目】介護従事者ができる薬剤管理

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

(1) 講義「入居患者様の薬剤管理」

「下剤の特徴と調整方法」

(2) 実習「処方から与薬の流れについて」

2 講師・指導者の所属職氏名

ブロードメディカル統括本部長 薬剤師 眞田 様

##### 【2回目】 【4回目】高齢者の運動機能の向上のためのケア（同内容）

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

(1) 講義「利用者様の筋力改善と運動について」

(2) 実習「実際に利用者さんの状態を見ながら個別に機能訓練方法を紹介」

2 講師・指導者の所属職氏名

佐藤病院 理学療法士 森 哉太 様

理学療法士 森 有輝 様

研修風景の様子（インスタグラム参照）

<https://www.instagram.com/reel/CyImOHzvkvF/?igsh=MzRIODBiNWFIZA==>

##### 【3回目】介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

(1) 講義「介護従事者が行う嚥下状態に合った食事のケア」

(2) 実習「ケアの実演」

2 講師・指導者の所属職氏名

砂川市立病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 島本 真純 様

##### 【5回目】高齢者の運動機能の向上のためのケア

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

(1) 講義「高齢者の運動機能向上のために」

(2) グループワーク「実例をもとにグループワーク」

2 講師・指導者の所属職氏名

砂川市立病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 伊藤 郁子 様

### 【6回目】認知症の理解

#### 1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

- (1) 講義「介護現場における認知症ケア」
- (2) グループワーク「実例をもとにグループワーク」

#### 2 講師・指導者の所属職氏名

滝川中央病院 訪問看護師 田邊 智美 様

### 【7回目】介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア

#### 1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

- (1) 講義「介護従事者が行う嚥下状態に合った食事のケア」
- (2) 実習「ケアの実演」

#### 2 講師・指導者の所属職氏名

砂川市立病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 島本 真純 様

### 【8回目】口腔ケア

#### 1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

- (1) 講義「どうする口腔ケア」
- (2) 実習「実際に利用者さんの口腔状態を見ながら実施」

#### 2 講師・指導者の所属職氏名

滝川中央病院 歯科衛生士 三谷 琴絵 様

〃

吉田 小弓里 様

## 3 研修実施に係る報告内容

### 研修実施の背景、課題

介護現場は慢性的な人手不足の状態にあり、未経験者であっても採用せざるを得ない状況にある。そのような中、知識も技術も経験も伴わない状況にあっても現場ではより質の高いサービス提供が求められている。昨年度、当施設においては不適切なケアがあり、職員からの聞き取りにおいて「そのようなことをしてはいけないとは知りませんでした」との話を聞く場面があり今後の施設運営に危機感を感じた。特に職員の視点に立った時に知らないから許されるというロジックに陥らないように施設はより一層の教育機会の提供を行わなければならないと考えており、研修の実施は介護保険法にも定められているところである。

また経験者と未経験者の中でケア方法にばらつきが見られ、施設としての共通的・標準的なケア方法を打ち出すことが急務となっている。

そこで介護職員を中心に医療面での知識を習得する必要があることが課題となっていた。

### 研修のテーマ及びねらい

1回目の「介護従事者ができる薬剤管理」をテーマとすることにより、薬の基本知識を理解し、服薬に対する意識の向上を図ることとした。

2 回目、4 回目の「高齢者の運動機能の向上のためのケア」をテーマとすることにより、運動機能に対する知識を深め機能訓練に対する職員の意識向上を図った。

3 回目、7 回目「介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア」により介護施設の中で利用者さんの数少ない楽しみである「食」に対する意識の向上を図り、安全においしく楽しく食べてもらえるよう意識改善を図った。

5 回目「高齢者の運動機能の向上のためのケア」により、3 回目に関連して「食べる」ことを支える周辺知識の理解を深めることを狙いとし、安全においしく楽しく食べてもらえる環境づくり意識した。

6 回目「認知症の理解」により、認知症高齢者の理解と利用者本人の不安を理解しようとする姿勢の大切さを学んでもらいたかった。

8 回目「口腔ケアについて」により、口腔ケアの大切さを理解し、おいしく食べることを支えるケアの意識付けを図った。

#### 研修成果等

##### 1 実施前の課題解決の有無等

一部で意識の向上は果たすことができたが実践に結びつかずに学びが活かせずに介護事故が起こるケースが見られた（食事介助）。研修以前の問題で倫理観や「人」という部分への対人サービスとして基本的な部分の教育から始めなければいけないと感じた。

##### 2 実施による成果及び効果

研修を受けた一部の職員では、現場に活かす動きや楽しみながら仕事に繋げる動きが見えた。

##### 3 今後の課題

上記 1 記載のように、当たり前のことが当たり前にできない現状があり、「当たり前のこと」の共通理解から始め、車いすの押し方、声のかけ方、食事介助の観察点や職員として気をつけるべき部分の講義と実習の両面の強化が必要だと感じた。管理するものとしてもできているものだろうという思いを介護事故に直面したことで気が付くことができ、手遅れではあるが、二度と同じ失敗を繰り返さないように研修を受ける姿勢から見直していきたい。また部下に研修を丸投げせずに、企画から関り今施設として本当に必要な部分に研修時間を振り向けていきたい。

#### 4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

食事に関するケアは、嚥下状態の観察・理解等特にリスクの高い場面であるので、再度研修（実習を中心に）を行い、より理解を深めていきたい。多くの職員に参加してほしいが、それができない現実があるので、特定の職員にターゲットを絞って研修実施をしていきたい。

#### 5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

研修を受けた職員の学びとなるテーマの選択、講師選定及び講師とのスケジュール調整、職員の研修時間の確保に苦労した。

## 6 研修実施に係るまとめ、感想等

介護現場における職員数の不足もあり、大人数での開催が難しくなった場面があった。今期も多岐にわたるテーマに取り組んでもらい介護職員にとって大きな学びとなった。また一部の研修については調理員への参加も促し、「食べる」ことを支える職種という視点から研修実施ができたのがよかった。介護施設であり、介護職員が中心となるが、生活相談員、介護支援専門員、栄養士、調理員、看護職員、事務員と多職種が施設運営に関わっているが、私達のような小さな規模の施設では相互理解こそが必要で連携こそがケアの充実の鍵となると感じた。他の職種を指摘するだけではなく、互いに学び伸びていく施設づくりを施設長を中心に今後も進めていきたい。今回、研修の学びが活かされなかった残念な事故があったが同じ過ちを繰り返さないように諦めることなく研修を続けて学びを深めていきたい。また研修をすることでの学びを深めることが主目的ではあるが、その研修に多くの職員の参加に結びつけるには施設としての職員確保に努めなければいけないと思った。また学んだことが実践に結びつかなければ意味がないので学んだことを繰り返し、振り返り実践を続けることで施設の介護の質を少しずつ上げ続けていきたいと思った。特に嚥下機能についてはさらに学びを深めて事故防止の面からもさらなる強化が必要だと感じた。

# 介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

## 1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 清恵会
事業所名	特別養護老人ホーム 三陽
事業所の所在地	〒063-0845 札幌市西区八軒5条西8丁目5番1号
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0170404107

## 2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
（ウ）認知症の理解
開催日時
令和5年10月10日（火）・13日（金）・16日（月）
開催場所
特別養護老人ホーム三陽 地域交流スペース
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
看護職2名、介護支援専門員2名、生活相談員3名、介護職員28名、事務職員等10名、医療相談員1名
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） 「明日から実践できる新しい転倒骨折防止対策」 目的：認知症への理解を深め、リスクマネジメントの手法を学ぶ 内容：講義及び演習 （1）講義「施設の転倒事故防止対策の現状」 （2）講義「転倒事故の原因分析」 （3）演習「防止対策の検討」 研修時間：（第1グループ研修）12:50～14:20 90分 （第2グループ研修）14:20～15:50 90分 ※1回90分のオンライン研修を計6グループに実施
2 講師・指導者の所属職氏名 株式会社 安全な介護 代表取締役 山田 滋氏

## 3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
基礎、基本の学習を継続的に行い、職員全体のスキルアップを図る必要がある。その一環として、特に今回は転倒骨折事故防止について研修を行った。

## 研修のテーマ及びねらい

認知症の高齢者の行動に対して理解を深め、リスクマネジメントの手法を学び、入居者・利用者の安全・安心を確保する取り組みの一助とする。

## 研修成果等

### 1 実施前の課題解決の有無等

事故の再発防止が課題となっているが、事故の背景との因果関係を分析しなければ再発防止にならないことを再認識する機会となった。

### 2 実施による成果及び効果

全ての転倒事故を一様に考えるのではなく、状況に応じて区別することや、原因分析の視点、ご家族に対して理解を求めること等について学んだ。

### 3 今後の課題

一切の転倒リスクを排除することは現実的に難しいが、研修で学んだことを活かし、リスクの軽減を実践することが今後の課題である。

## 4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

- ・ロールプレイの定期的な実施による、分析の考え方の定着
- ・継続的な分析の実践

## 5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

著名な講師を外部から招くことにより、研修に対する職員の集中力を高めている。  
また、研修実施に対する職員の満足度も高くなっている。

## 6 研修実施に係るまとめ、感想等

事故の再発防止については常々取り組んでいるが、因果関係の分析について再認識することができ、たいへん有意義であった。

介護関係職員医療連携支援事業を活用し、毎年さまざまなテーマで研修を実施させていただいているが、外部講師による研修は職員の刺激になり、活性化につながっている。



# 介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

## 1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 黒松内つくし園
事業所名	特別養護老人ホーム ユニットケア慶和園
事業所の所在地	〒044-0121 虻田郡京極町字更進 780 番地 1
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0172200347

## 2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
(キ)介護従事者ができる看取りケア
開催日時
① 令和5年11月9日（水）15：00～16：30 ② 令和6年1月31日（水）15：00～16：30
開催場所
慶和園1階ホール
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
① 35名 ※講師2名 特養：27名・養護4名・管理2名 (全59名：特養50名・養護9名) 特養：介護員15名 看護師3名 栄養士2名 ケアマネ1名 相談員1名 OT1名 事務・清掃・用務4名 養護：支援員3名 相談員1名 管理：施設長1名、副施設長1名
② 40名 ※講師2名 特養：30名・養護6名・管理2名 (全59名：特養50名・養護9名) 特養：介護員19名 看護師4名 栄養士1名 ケアマネ2名 相談員1名 事務・清掃・用務3名 養護：支援員4名 看護師1名 相談員1名 管理：施設長1名、副施設長1名

## 研修内容

### ① 看取りケア研修①

#### 1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

##### （1）講義 「看取りケアについて」 ※看取りケアの基本事項

- ・高齢者施設における意思決定支援
- ・施設における看取りケアの現状
- ・入所者の重度化や疾病への対応
- ・看取りに関して医学的なアセスメントは十分か？
- ・医師や家族を呼ぶタイミング
- ・知っておきたい看取る側の心がまえ
- ・利用者が亡くなったあとのスタッフへのグリーフケア

##### （2）グループワーク

「うまくいった看取りケースについて・モヤモヤが残った看取りケースについて」

- ・・・各グループからの発表・意見共有

#### 2 講師・指導者の所属職氏名

J A 北海道厚生連 倶知安厚生病院

地域医療連携室・看護科長・認定看護師 大井 チエミ 氏

ようてい訪問看護ステーション・ようてい居宅介護支援事業所

所長 岩森 桃子 氏

### ② 看取りケア研修②

#### 1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

##### （1）講義 「看取りケアについて」 ※家族支援を考える

- ・看取りの場所のメリット・デメリット
- ・看取りのステージについて
- ・看取り期に家族が受ける影響について
- ・看取り期の家族のニーズと家族ケアについて
- ・自分の価値観を知ろう
- ・まとめ

##### （2）グループワーク

「看取り期の家族ケアについて困ったこと、うまくいったことについて」

「これからやってみたい家族ケアは？」・・・各グループからの発表・意見共有

#### 2 講師・指導者の所属職氏名

J A 北海道厚生連 倶知安厚生病院

地域医療連携室・看護科長・認定看護師 大井 チエミ 氏

ようてい訪問看護ステーション・ようてい居宅介護支援事業所

所長 岩森 桃子 氏

### 3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
ここ 2～3 年、当園における看取り対応の件数が増加していることを踏まえ、その受け入れ体制（基礎的事項の確認・地域における生活施設の使命・役割を理解）の強化が求められている。
研修のテーマ及びねらい
看取り介護の基礎を学び、グループワークを通じて、以後の対応方法（大切な事項等を整理）を具体的にしていく。学んだことから看取りケアに関するマニュアルを作成する。
研修成果等
1 実施前の課題解決の有無等 2 回にわたる研修において、講義、グループワークを重ねることで、看取りケアに関する基本的事項の理解はもちろん、これまで実践してきたことを振り返る（地域の中での役割・ご家族からの評価など）良い機会となり、介護職員が以後の実践に向けてモチベーションアップすることができた。今後の実践において大切にしていきたいことを整理することができた。よって事前の課題解決をすすめることができたと評価している。
2 実施による成果及び効果 改めて、生活施設における看取りケアを学ぶことで、参加者が地域の中の施設の使命や今後求められる役割を考えるきっかけとなった。また、看取りケアをすすめるにあたり、今後必要なこと（大切なこと）について、多職種で話しあうことが出来、相互理解や今後の取り組みの方向性を見出すことができた。 講義内容を踏まえ、看取りケアをすすめる上での基礎的事項をまとめたマニュアル作成に着手することができた。
3 今後の課題 研修で学んだことを実践できているかのモニタリングの機会や実践したことをまとめて発表（共有）する機会を設けていきたい。 看取りケアについては、ご家族の理解・協力がなければ実践できないので、ご家族の理解を深める機会をつくっていきたい。

### 4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

引き続き、研修の機会を設け相互理解を深めることを進めていきたい。 先進的に医療・介護の連携をすすめている事業所とも情報交換など（事例発表・施設見学など）を積極的に行っていきたい。
--

### 5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

コロナ感染症の流行もある中、対面研修会を企画し、日程調整を行い、開催にこぎつけたこと。
---

## 6 研修実施に係るまとめ、感想等

・研修テーマが、「介護現場において大変興味深いもの、日頃より難しさを感じているもの」であったことから日頃の研修に比べ、参加者も大変多かった。自ずと講義、グループワークと積極的に参加する姿勢の職員も多くみられ、終始活気ある雰囲気の中で研修を進めることができた。

1回目、2回目の講義、グループワークについてケアの実践に直結するものであったことから、研修終了後のアンケートからも研修満足度の高い研修とすることができた。

これまでご利用者にかかわる流れの中で「看取りケアの実践」を行ってきたが、改めて講義・グループワークを行ったことで、自分たちの実践を客観視し、出来た点、修正点等を振り返る良い機会となった。

また、普段かかわることの機会が無かった、医療機関の看護師及び在宅サービスの看護師の講義を聞くことが出来、講師を身近に感じることもできた上、それぞれの実践を理解することができたことは良かった。

# 介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

## 1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 さくら会
事業所名	特別養護老人ホームさくら苑
事業所の所在地	〒063-0837 札幌市西区発寒 17 条 3 丁目 4-30
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0 1 7 0 4 0 1 9 4 7

## 2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
（ウ）認知症の理解
開催日時
令和6年2月中
開催場所
さくら会多目的スペース
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
介護職員38名、看護職員10名、介護支援専門員2名、機能訓練指導員3名、管理職員6名、生活相談員2名、栄養士1名
研修内容
1. 講義 「健やかなケア・・・認知症の理解の向上とメンタルケアについて」
2. 事例検討、グループワーク、ディスカッションによる演習
3. 講師 勤医協西区病院 認知症看護認定看護師 澤野 亜矢子 看護主任
4. 講習時間 2時間

## 3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
全国的な高齢化社会、認知症患者の増加が懸念されており、認知症ケアの重要性が高まっている。その一方で福祉も含めた担い手の人材不足が顕著となっている。認知症の理解を深めるとともに、それをケアする職員負担の面でメンタルヘルスへの取り組みも課題となっている。
研修のテーマ及びねらい
専門的資格を持つ講師による講義や、事例・ディスカッションなどの機会を作ることで、今以上の認知症への理解・知識を習得し、より高いレベルでのケアの向上に繋げていく。その上で、介護する側も感情のある人間であり、入居者様も職員もお互いに健やかなメンタルが持続出来るよう、職員側のメンタルヘルスの意識も高めることで、より質の高いケアへと繋げていく。

研修成果等

#### 4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

コロナ禍で外部講師を迎えての研修はしばらく実施出来ていなかったため、年に数回は新鮮な外部講師を招き研修を実施する。又、職員の ZOOM を含めた外部研修も積極的に進めていく。

#### 5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

年末年始にかけ、コロナクラスターが双方に発生し日程調整に時間を要してしまった。

#### 6 研修実施に係るまとめ、感想等

外部講師を招く際は出来るだけ早い段階での実施を進めていく。

# 介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

## 1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 溪仁会
事業所名	ケアハウス カームヒル西円山
事業所の所在地	〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
サービス種類	ケアハウス（特定施設入居者生活介護）
事業所番号	0170100596

## 2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
(ウ)認知症の理解
開催日時
令和5年11月21日
開催場所
カームヒル西円山 レストラン
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
合計29名（介護職19名、看護職2名、相談職5名、栄養士2名、事務1名） 参加事業所種別：特定施設入居者生活介護、介護老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） （1）講義：「認知症の方の世界を知る」13：15～14：00 （2）VRにて認知症体験14：00～15：10 （3）事例検討15：15～16：10 2 講師・指導者の所属職氏名 所属）定山溪病院 職名）看護副部長・認知症看護認定看護師 氏名）松山 愛

## 3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
入居者に占める認知症者の増加（さまざまな疾患や状態）があり、個別のケア内容についてチームでの多職種連携が図れていない。
研修のテーマ及びねらい
認知症を理解するための講話やVRを利用し、認知症者が見えている世界を知り当事者視点で考えることができるようになる事。 事例検討を通して介護と医療のチームケアの充実、役割の再確認ができる事。

## 研修成果等

### 1 実施前の課題解決の有無等

講話と VR にて認知症の見えている、感じている世界を体験し、当事者の視点を理解できた。事例検討によって症状に対しての医療職と介護職との連携の在り方を議論できた。

### 2 実施による成果及び効果

当事者の思いを先に考えるようになり、どうしたら良いかの前にどうして欲しいかを考える発言が増えた。

多職種間での情報交換がより積極的になった。

### 3 今後の課題

介護・看護それぞれからの視点を情報交換し、対応するためのカンファレンスを充実させる。

## 4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

1. 当事者視点の学びの下、今後はロールプレイなどで対応についての具体的な方法を深めていきたい。

2. 事例検討の充実。

## 5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

苦労：講師人選。

工夫：研修全体にストーリー性が持てるように実施した。

## 6 研修実施に係るまとめ、感想等

全職員が集まり、講義・VR・事例検討とまとまった時間を作った研修会のはじめてであったが、同じ研修を受ける中で、医療職と介護職が共通の課題を話し合う機会が持てたことが良かったです。

研修後は、当事者の気持ちをまずは考える発言が増え、ご本人の思いや様子を伝える言葉の言い換えもすすみ（例：不穏→状態を表現など）、より状態を具体的に記録、情報交換する事ができるようになりました。（認知症ケアに対する興味関心がこの研修会を通して深まったと思います。）